

会 議 録

会議の名称		第1回 桜並木学園コミュニティ・スクール推進会議		
開催日時		令和6年6月5日(水) 開会 10:00 閉会 12:00		
開催場所		並木中学校会議室B		
事務局(担当課)		生涯学習推進課		
出席者	委員	南栄一、丸山美知江、店曲孝仁、山中真弓 根本寿史、樽味幸恵、増田望 大平佳代、齋藤樹恵、小川友紀、天谷恭子 並木中学校：校長 額賀敏行 教頭 高崎満 教務主任 横山賢裕 桜南小学校：校長 奥沢志乃 教頭 春田友則 教務主任 漆原英明 並木小学校：校長 大村千博 教頭 稲垣章一		
	その他			
	事務局	教育局次長：久保田靖彦 生涯学習推進課課長：澤頭由紀子 生涯学習推進課係長：飯島遊 社会教育主事：村上和宏 地域連携教育指導員：酒井和宏		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	1人
非公開の場合はその理由				
議題		1 学園運営の基本方針について 2 学園の教育活動や地域の活動事例の紹介 3 熟議 テーマ「地域から見た子ども、学校から見た子ども」 4 その他		
会議録署名人		確定年月日	令和 年 月 日	
会議次第	1 開 会 2 選任通知書交付 3 教育長挨拶 4 説明事項 5 座長・副座長の選出 6 協 議 (1) 学園運営の基本方針について (2) 学園の教育活動の紹介 (3) 熟議 テーマ「地域から見た子ども、学校から見た子ども」 (4) その他 ・コミュニティ・スクール推進会議の今後の予定について 7 閉 会			

<審議内容>

1 開会

事務局：ただ今から、令和6年度 第1回 桜並木学園コミュニティ・スクール推進会議を開会いたします。

はじめに、会議を進行するに当たり書記を決めたいと思います。事務局案として並木中学校横山先生にお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

参加委員：お願いします。

事務局：お引き受けくださりありがとうございます。よろしく申し上げます。

2 選任通知書交付、

事務局：始めに「選任通知書」の交付をいたします。通知書の交付は五十音順で代表者1名とさせていただきます。

(「選任通知書」を天谷委員に交付)

ありがとうございました。お席にお戻りください。

この推進会議は、協議会を設置するまでのおおむね1年間を予定しています。また、皆様の選任通知書については、机の上にございますので御確認ください。委員の皆様の自己紹介に関しては、この後お時間を取らせていただいております。御了承ください

3 挨拶

・森田教育長より（久保田次長代読）

「皆さんこんにちは。教育長の森田でございます。

本日はお忙しい中、第1回桜並木学園コミュニティ・スクール推進会議に参加していただきありがとうございます。また、委員の皆様におかれましては当推進会議の委員を快くお引き受け頂き、深く御礼申し上げます。

さて、近年の急激な社会の変化に伴い、子どもたちを取り巻く環境や学校が抱える課題は複雑化・多様化している状況があり、学校と地域の連携・協働の重要性が指摘されています。皆様にお配りしたつくば市教育大綱においても、「保護者・学校・地域・行政が協力し、社会全体で子どもの育ちの場を支える。」ことが、今必要なこととされています。

こうした背景を踏まえ、つくば市では、「コミュニティ・スクール」を導入していくこととしました。「コミュニティ・スクール」は、学校と地域、保護者がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映することで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支える「地域とともにある学校づくり」を進めるための仕組みです。また、学校を核とした交流を通して、地域の活性化を期待することもできます。

つくば市では、令和4年度に吾妻学園をモデル地域として先行的にコミュニティ・スクールを導入し、昨年度は8学園、今年度は新たに6学園で導入する計画です。その中で見えてきた課題としては、この仕組みをいかに地域に周知し、市民の方々の理解を得ていくかにあると思ってい

ます。そのため、教育局では、出前講座のメニューを新設するなど、「コミュニティ・スクール」の周知に努めているところです。

桜並木学園においては、本年度よりコミュニティ・スクールの導入が始まります。皆様には、それぞれの立場から、子どもたちの未来のために何ができるか、意見を出し合っていただければと考えています。つくば市の教育のさらなる充実に向け、どうぞ御協力をよろしく願いいたします。

(久保田次長より)

昨年度、研究発表会があり、子どもたちは主体的に動いていました。本日は、活発な意見をして、盛り上げていただければと思います。

4 説明事項

事務局：社会教育主事の村上より「つくば市コミュニティ・スクールについて御説明させていただきます。

事務局：生涯学習推進課社会教育主事村上と申します。よろしく願いいたします。わたくしのほうからは、

- 1 つくば市の教育が目指すもの
- 2 コミュニティ・スクールとは
- 3 つくば市で進めるコミュニティ・スクールとは

について御説明いたします。

まず、つくば市の教育が目指すものについて御説明いたします

配布されている教育大綱の冊子を手にとっていただき、1ページをお開きください。つくば市教育大綱では、一人ひとりが幸せな人生を送る、ことを最上位の目標に設定しています。次に7ページをお開きください。いま必要なことの中に、保護者・学校・地域・行政が協力し、社会全体で子供たちの育ちの場を支えることを位置づけています。

教育大綱に基づいたコミュニティ・スクールの導入をすることにより、今後地域の多くの人々が学校づくりに参画し、地域と一体となり、地域とともにある学校づくりを進めていきたいと考えています。つくば市の学校教育を所管している学び推進課からは、「学び推進方針」を学校に示しています。みんなが幸せを実感できる学園・学校・幼稚園にするために、今年度特に意識していることは、子どもたちの「自己決定」ができる環境を整えていくことです。また、学び推進課では「伴走から自走というスローガン」のもと、各学校が生き生きと自走していけるように日々関わっています。

続いて、コミュニティ・スクールについて御説明いたします。具体的にコミュニティ・スクールとはどのようなものかを御説明いたします。コミュニティ・スクールとは、一言で言いますと地域とともに子供を育む学校と言えます。コミュニティ・スクールのコミュニティは地域住民・保護者・学校であり、それらが、力を合わせて子供たちの成長を支えていく学校のことをコミュニティ・スクールと呼んでいます。もっと踏み込んだ話をさせていただきますと、つくば市ではコミュニティ・スクール協議会という話合いの場を設置している学校をコミュニティ・スクールと呼んでいます。

桜並木学園は今年度、コミュニティ・スクール推進会議とって準備段階の会議を実施することになっています。来年度は協議会とって、法に位置付けられたコミュニティ・スクールの本格設置となります。

スライドでお示ししているのが、コミュニティ・スクール協議会の様子です。右上、校長先生が学校運営の基本方針、いわゆるグランドデザインの説明をしています。中段、下段の写真、熟議を行っています。

さて、それではなぜコミュニティ・スクールが必要なのでしょう。

現在、学校では、「いじめ、不登校」、「教員の業務量増加」、地域では、「地域社会における支え合いやつながりの希薄化」など、様々な課題が挙げられます。また、新学習指導要領では、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という理念を学校と社会が共有することが大切であると書かれています。これらのことから、学校と地域の課題を解決するために、学校と社会が目標を共有したり、地域と学校が連携して幅広い視点で子供たちの成長を支えたりする必要があります。

それでは、具体的につくば市で進めるコミュニティ・スクールについて御説明いたします。つくば市コミュニティ・スクールには、スライドでお示ししている4つの機能があります。

①の機能として、学校運営の基本方針についての承認があります。学校運営協議会では第1回目に学園長・学校長が学校運営の基本方針、いわゆるグランドデザインの説明を行います。

その基本方針に対して委員の皆様から承認を行うことから学校運営協議会がスタートしていきます。ただし、学校運営の責任者は校長であり、学校運営協議会が校長の代わりに学校運営を決定・実施するものではありません。

②の機能としては、学校運営に意見を述べるということです。これから始まる学校運営協議会では、皆さんの様々な視点から御意見を頂ければと思っています。

③の機能として教職員の任用について意見を述べるできます。教職員の任用とは、学校とコミュニティ・スクール協議会が実現しようとする教育目標等に合った人材を求めることです。例えば、学年主任ができるリーダー性のある教員や外国語活動に力を入れたいので、授業力のある教員求めることなどです。

④の機能として学校評価があります。委員の皆様と学校の課題について共有したり学校評価について話し合ったりということをしていきます。現在、桜並木学園はコミュニティ・スクール推進会議という準備段階の会議となりますが、来年度には協議会という法に基づいた本格設置となります。委員の立場としても特別職の地方公務員となり、スライドにお示ししているような責任のある立場となっていきますので、御協力をお願いいたします。

先ほど、「熟議」という言葉が出てきましたので、「熟議」について御説明いたします。「熟議」とは、どのような子どもを育てたいのか。何を実現したいのか。という目標・ビジョンを共有するために、「熟慮」と「議論」を重ねることを言います。ひとことで言うと「よくよく、話し合う」ということです。

熟議では、テーマに対して、委員それぞれの考えを付箋にしるし、模造紙に貼り付けていくというスタイルが多いです。熟議に参加する委員の方が、必ず意見を会議に反映してほしいという意図のもとこのようなスタイルをとっています。

スライドでお示ししているのは、コミュニティ・スクールを自転車に例えたイメージ図です。自転車で例えるならば、協議会で話し合った内容が前輪およびハンドルとなり、「育てたい児童・生徒像」やコミュニティ・スクールの在り方などの方向性を決める役割を担っています。そして後輪には、地域学校協働活動が位置付けられます。地域学校協働活動とは、地域と学校が連携・協働して行う様々な活動のことです。コミュニティ・スクールでは、前輪の協議会で方向性が決まったものに対して、それを後押しをするように地域と学校が連携して様々な活動を行っていきます。学校の教育活動に対して地域学校協働活動を進めていくことで、この自転車がスムーズに進むようになります。自転車がスムーズに進むようになるときには、今まで以上に学校と地域が連携し、学校を核とした地域づくりにつながっていくはずですよ。

地域学校協働活動の例を一つ御紹介いたします。昨年度、吾妻学園では、「ようこそ先輩」という学習において、ゲストティーチャーを地域学校協働活動推進員の方がコーディネートした授業を行いました。このように、地域学校協働活動が活発になると、地域の方々のかかわりが、児童生徒の幅広い視野をもつことにつながります。また、地域の方々とかかわることで、学校で学んでいることが社会でどのように役立っているかを理解することにもつながります。新しいことをやらなくてもよい 運営協議会の中で、何が必要か、何をしていくべきか、地域と学校が熟議し、ともに作り上げていくこと大切です。既存のものをベースに、まずは、「学校理解」「地域理解」から進めていければと思います。

今日お伝えしたいことをまとめます。

- ①つくば市教育大綱では、一人ひとりが幸せな人生を最上位の目標としていること
 - ②コミュニティ・スクールは地域とともに子どもを育てる仕組みであること
 - ③つくば市のコミュニティ・スクールには4つの機能・役割があること
 - ④熟議を通して皆が共有することが大切であるということ
 - ⑤地域と学校が連携した様々な活動、地域学校協働活動が始まること
- です。

つくばの未来の創り手となる、子供たちのために御協力をよろしく願いいたします。

以上になります。

事務局：ただ今の件につきまして、意見や質問はありますか。

(質疑応答) なし

5 座長・副座長の選出

事務局：協議の前に、座長と副座長の選出を行いたいと思います。選出につき

ましては、令和6年度つくば市コミュニティ・スクール推進会議開催要項第6条第2項に「座長及び副座長は、構成員の互選によって定める」とあります。本年度については、コミュニティ・スクールを立ち上げていくということもあり、各校と教育局で協議の上、座長、副座長につきまして提案させていただきたいと思っております。皆様いかがでしょうか。

事務局としては、南委員に座長を、丸山委員に副座長お願いしたいと思っておりますがいかがでしょうか。

参加委員：（拍手）

6 協議

（1）学園運営の基本方針について

○学園グランドデザインについての説明

並木中学校より（額賀校長）

- ・昨年度、コミュニティ・スクール推進会議が始まるにあたり、グランドデザインを見直した。桜並木学園の教育目標は、「自ら未来をひらく力の育成」
- ・目指す児童生徒像は、「進んで学び新たな発想ができる児童生徒」「自他のよさを認め、思いやりの心をもって積極的に周囲と関わる児童生徒」「可能性に向かって自らたくましく行動できる児童生徒」
- ・7年生は、桜南小、並木小で育てていただき、学園が目指す生徒になってきている。
- ・これからも、保護者と連携した児童生徒を育成していく。
- ・また、学校評価をもとにした改善もしている。
- ・学園のグランドデザインは、家庭の教育力に関して、これまで取り組んできた内容を記載している。
- ・地域の教育力に関しては、地域と連携した挨拶運動等、日常的に何ができるのかを考えている。
- ・キャリア教育に関しては、ライオンズクラブの協力のもと、15種類の職種の方々に来ていただき6年と8年が学ぶ機会をつくる。

（2）学校の教育活動の紹介

（桜南小春田教頭より）

- ・本校は、1876年開校した。麻布教育研究所の永島先生を講師に迎え、3年目を迎える。学びの共同体ということで、45分間学び続ける児童を目指す授業改革を行っている。課題設定や場の工夫、グループで進める工夫を行っている。
- ・スポーツフェスティバルは、児童が主体的に進めた。昨年度の3月から児童が話し合いを始め、取り組んだ。
- ・桜南フェスティバルは、学校とPTAが協力し、子どもが普段できない体験型のブースを設置するなどした。
- ・ボランティア活動は、読み聞かせ、桜南キッズ（英会話）、図書活動など

を行っている。

(並木小大村校長より)

- ・キャッチフレーズは、「創ろう！みんなが幸せな並木小学校」で、子どもの成長をみんな（子ども・教職員・保護者・地域の方々）で喜び合える学校にしていこうということである。
- ・なかよしの会、体力テストのサポートなどを通じて、行事や授業を通して自己有用感、自己肯定感を高める取組をしている。
- ・外部指導員による学習では、3年生のリコーダー講習会、本物体験の充実を図っている。
- ・国際理解教育では、きらきら教室（日本語教室）によるこいのぼりづくり、日本語加配訪問等を行っている。
- ・5年ぶりの全校運動会を行った。
- ・係活動では、高学年が中心となり、自覚を高める取組をしている。
- ・校内研修では、「挑戦する心を持ち、生き生きと自分で考えることができる児童」の育成を目指し、探究的な学び「問い」をどうもたせるか取り組んでいる。また、協働的な学びを進めるためのICTの活用に取り組んでいる。

(並木中高崎教頭より)

- ・組織目標は、「生徒が身に付けたい力」「教師が発揮する指導力・運営力」を意識して取り組んでいる。
- ・哲学対話では、「主体的・対話的で深い学び」になるよう昨年度は、体育祭の話合いで行った。
- ・職場体験でも様々な事業所に行って体験を行った。
- ・オープンキャンパスは、並木小、桜南小の児童が来校した。
- ・幼稚園、保育所も近くにあり、交流を行った。
- ・本物の体験として、大洗高校のマーチングバンドを見る機会をつくった。
- ・異学年交流として、4月の初めに、同クラスの異学年交流を行った。
- ・対話を深めるためにこれからも授業改善を行っていく。

(質疑応答) なし

- ・グランドデザインについて承認

(3) 熟議

- ・「地域から見た子ども、学校から見た子ども」として、熟議を行う。ファシリテーターは教頭先生にお願いしたい。

(高崎教頭より説明)

- ・模造紙に、軸を決めていただくとよい。

- ・付箋には、単語を書き、貼っていく。
- ・11：45にはまとめて、発表する。

学校ごとに発表

(桜南小)

- ・「主体性」「人柄」についての意見が多かった。
- ・地域からは、あまり顔が見えないとの意見があった。
- ・家での学習が工夫されている。
- ・廊下を走る児童もいる。
- ・下校時のマナーが気になる。

(並木小)

- ・仲が良い。
- ・人懐こい。
- ・元気に遊ぶ姿がある。
- ・感情のコントロールが苦手。
- ・受け身。
- ・挨拶が少ない。
- ・学校の情報が少ない。
- ・「自ら考える力」「積極性、失敗を恐れない強さ」を目指したい。
- ・ChatGPTに負けない、生み出す力を付けたい。

(並木中)

- ・真面目で素直な生徒が多い。
- ・思いやり、気が利く子も多い。
- ・ネクタイを今でもしている、ブレザーも着ている。自己決定力が弱い。
- ・受け身、小さくまとまっている。
- ・交通ルール、社会性、上下関係に課題がある。

(質疑応答)

○山中委員

- ・桜南小の麻布教育研究所による取組はすごくいい方向になっている。
- ・修学旅行の行き先、運動会の競技に関しても、子どもたちが決めている。
- ・桜南小で行っている取組をぜひ見に来てもらいたい。桜並木学園として共有したい。

(4) その他

○コミュニティ・スクール推進会議の今後の予定について

春田教頭より

今回は、令和6年9月6日(金) 10:00 から桜南小学校での開催を予定。場

所は今後追って連絡する。

7 閉会

事務局：南座長、協議進行、ありがとうございました。本日の会議の内容は以上となります。

なお、本日の会議の様子を、つくば市教育委員会ホームページにて写真を掲載させていただきたいと思えます。委員の皆様、よろしいでしょうか。

ありがとうございます。以上をもちまして、令和6年度第1回桜並木学園コミュニティ・スクール推進会議を閉会いたします。本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございました。今後とも、どうぞよろしく願いたします。

令和6年度第1回桜並木学園コミュニティ・スクール 推進会議

日時：令和6年6月5日（水）

10:00～

場所：つくば市立並木中学校 会議室3F

次 第

1 開 会

2 選任通知書交付

3 教育長挨拶

4 説明事項

つくば市のコミュニティ・スクールについて

5 座長・副座長の選出

6 協 議

(1) 学園運営の基本方針について

・学園グランドデザインの説明

(2) 学校の教育活動の紹介

(3) 熟議 テーマ「地域から見た子ども、学校から見た子ども」

(4) その他

・コミュニティ・スクール推進会議の今後の予定について

7 閉 会

令和6年度 桜並木学園コミュニティ・スクール推進会議
(第1回: 6月5日水曜日) 受付名簿

番号	委嘱の区分	氏名	よみがな	所属・役職
1	(1)地域住民	南 栄一	みなみ えいいち	元並木中学校評議員
2	(1)地域住民	丸山 美知江	まるやま みちえ	元並木中学校評議員
3	(2)児童・生徒の保護者	山中 真弓	やまなか まゆみ	桜南小学校PTA会長
4	(2)児童・生徒の保護者	根本 寿史	ねもと としふみ	桜南小学校PTA副会長
5	(2)児童・生徒の保護者	松本 和香	まつもと わか	桜南小学校PTA副会長
6	(2)児童・生徒の保護者	樽味 幸恵	たるみ ゆきえ	並木小学校保護者
7	(2)児童・生徒の保護者	増田 望	ますだ のぞみ	並木小学校保護者
8	(2)児童・生徒の保護者	大平 佳代	おおひら かよ	並木小学校保護者
9	(2)児童・生徒の保護者	齋藤 樹恵	さいとう みきえ	並木中学校PTA会長
10	(2)児童・生徒の保護者	小川 友紀	おがわ ゆき	並木中学校PTA副会長
11	(2)児童・生徒の保護者	天谷 恭子	あまがい きょうこ	並木中学校PTA副会長
12	(4)学識経験者	店曲 孝人	たなわ たかひと	元並木中学校評議員
13	(5)学校長	奥沢 志乃	おくざわ しほ	桜南小学校校長
14	(5)学校長	大村 千博	おおむら ちひろ	並木小学校校長
15	(5)学校長	額賀 敏行	ぬかが としゆき	並木中学校校長
16	(6)教職員	春田 友則	はるた とものり	桜南小学校教頭
17	(6)教職員	稲垣 章一	いながき しょういち	並木小学校教頭
18	(6)教職員	高崎 満	たかさき みつる	並木中学校教頭
19	(6)教職員	漆原 英明	うるしはら ひであき	桜南小学校教務主任
20	(6)教職員	末永 康子	すえなが やすこ	並木小学校教務主任
21	(6)教職員	横山 賢裕	よこやま まさひろ	並木中学校教務主任

本県教育の目標

- ひとりひとりの能力を開発し豊かな人間性をつちかう
- じょうぶな身体をつくりたくましい心を養う
- 郷土を愛し協力しあう心を育てる

つくば市教育大綱

- ◇「教え」から「学び」へ
- ◇「管理」から「自己決定」へ
- ◇「認知能力偏重」から「非認知能力の再認識」へ

目指す学園・学校像

- みんなが幸せを実感できる学園・学校
～自己実現できる学校・みんなで支え合い、みんなが生き生きした学校～

令和6年度桜並木学園グランドデザイン

いばらき教育プラン

活力があり、県民が日本一幸せな県茨城の未来をつくる「人財」を育て、日本一子どもを生き育てやすい県を目指します

桜並木学園教育目標

自ら未来をひらく力の育成
～進んで学び思いやりの心やたくましさを育む学園～

学園のめざす児童生徒像



桜南小学校



並木小学校



桜並木学園章



並木中学校

○進んで学び新たな発想のできる児童生徒

- ・小学校での教科担任制の推進
- ・小中学校教員の連携を通じた学習支援による専門的な知識、技能の習得
- ・保護者や研究施設など地域の教育資源や人的資源を生かした体験活動による探究的な授業の充実
- ・ICT機器の有効活用で実現する個別最適な学び・協働的な学び

○自他のよさを認め思いやりの心をもって積極的に周囲と関わる児童生徒

- ・認め合い、高め合う、日々の人間関係づくり
- ・自己肯定感を高め、自他の価値観を尊重する道徳の授業の充実
- ・人権感覚を磨く、学園ハートフルフォーラム

○可能性に向かって自ら鍛えたくましく行動できる児童生徒

- ・「いばらきキャリア・パスポート」を活用した系統的なキャリア教育の推進
- ・不登校解消に向けた3校連絡協議会の充実
- ・中1ギャップの解消と中学生のリーダーシップの育成を図る交流活動の充実

地域と共に児童生徒を育む、活力ある学園・学校づくり ～コミュニティー・スクールへ～

保護者・地域と共に

社会に開かれた教育課程

- 児童・生徒・家庭・地域の実態やニーズを把握し、課題を明確にして、規範意識や自主性、社会性を醸成
- 地域人材のコーディネート、3校PTAによる児童生徒の健全育成や学園全体の安全対策、情報交換の実施

◆ 研修テーマ ◆ 自ら考え対話し、学び合う児童生徒の育成～学びの連続性を意識して～

学校の教育力

- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの学習指導の充実
- ・インクルーシブ教育の理念を踏まえた生きる力を培う教育の充実
- ・「考え、議論する道徳」の実践
- ・本物に触れ、学び・感じる体験活動の充実（キャリア教育、人権教育等）
- ・授業実践の成果と課題の分析、学校評価を活かした教育活動の改善
- ・教育の質の向上を目指した働き方改革
- ・幼・保・小・中の円滑な接続と交流の充実

家庭の教育力

- ・PTA活動や学級・学年懇談会を通じた教育活動への理解と協力
- ・授業参観や二者・三者面談を通じた児童生徒理解と健全育成
- ・学校行事（儀式・体育・文化・校外活動・奉仕的な行事）における協力
- ・キャリア教育、健康・安全に関する教育等についての情報共有と活用
- ・「早寝・早起き・朝ご飯」など、心身ともに健康な生活へのアプローチ
- ・学校保健委員会での情報共有と活用

地域の教育力

- ・育てたい子供像や共通目標の共有
- ・地域と連携したあいさつ運動、交通安全対策、不審者対策
- ・関係諸機関との連携の充実
- ・地域に根差した学園防災教育の実践
- ・職場体験学習を始めとする地域の教育力を生かした教育活動の展開
- ・コミュニティー・スクール導入へ向けた推進会議の実施

【学園教育目標】

自ら未来をひらく力の育成

～進んで学び思いやりの心やたくましさを育む学園～

つくば市立並木中学校

校長名	教職員数	学級数	生徒数
額賀 敏行	32	15	356

【組織目標】

- 生徒が身に付けたい力
・自ら考え、対話し、学びあい、自己を表現する力
- 教師が発揮する指導力・運営力
・哲学対話を通して培った力を各教科、領域、つくばスタイル科での課題解決に活かす。
・組織の機能を十分に発揮して生徒理解に努め、生徒の自己選択、自己決定、自己実現に寄り添う。

つくば市立並桜南小学校

校長名	教職員数	学級数	児童数
奥沢 志乃	38	16	362

【組織目標】

「主体的に考え、共に学びあう児童の育成」

キーワード「自分で自分から」「関わる力」

つくば市立並木小学校

校長名	教職員数	学級数	児童数
大村 千博	26	13	385

【組織目標】 挑戦する心を持ち、生き生きと自分で考えることのできる子どもを育成する。

○未来を切り拓く力 ○自分とともに周りの人を大切にする心 ○困難に立ち向かい負けない力

【キャッチフレーズ】 創ろう！みんなが幸せな並木小学校

～子ども・教職員・保護者・地域の方々も～



令和6年度

桜並木学園 学園要覧



つくば市立並木中学校

つくば市並木3丁目8番地

TEL 029-851-7100

FAX 029-851-2404

E-mail namij01@tkb.ed.jp



つくば市立桜南小学校

つくば市大角豆789-1

TEL 029-851-2130

FAX 029-851-2405

E-mail ounan01@tkb.ed.jp



つくば市立並木小学校

つくば市並木2丁目12番地

TEL 029-851-2806

FAX 029-851-2343

E-mail namie01@tkb.ed.jp